

平成18年度第1回平塚市美術館協議会会議録

開催日時 平成18年10月25日(水)14時～15時20分

開催場所 平塚市美術館 研修室

出席者

委員 新関委員、朝野委員、吉田委員、小宮委員、山梨委員、國澤委員、篠塚委員

事務局 田中社会教育部長、草薙館長、鈴木副館長、柳川館長代理、小澤館長代理
土方学芸員、端山学芸員、小池学芸員、郡司学芸員、勝山学芸員、森岩学芸員

傍聴者 無し

開 会 鈴木副館長

田中社会教育部長あいさつ

委員の紹介 副館長

会長に議事進行を交代

議 題

(1)平成18年度事業概要

副館長が年間計画を説明

(質疑応答)

・企画展と特集展の違いはなにか?

(特集展とは通常、常設展といわれるもので、名称変更して所蔵品展や中企画・小企画のテーマ性を持たせた展覧会として行なっている。)

(2)平成18年度上半期事業結果について

展覧会や関連事業の内容及び観覧者からの感想などを各担当から報告

教育普及事業の実施状況を担当が報告

その他の事業と施設利用状況を報告

(質疑応答)

・絵本展の行啓の影響はあったのか?

(最終の(日)は1,200人以上の観覧があったので、大きな影響があった。)

・工芸、彫刻展を企画しているようだが、本校で仏像に興味がある生徒がいるので美術館でそのような展示はあるのか?

(今回は温度湿度に影響されない口ビーでの彫刻展示であり、近現代の美術を展示したいとの思いがあるので、仏像は考えていない。)

・絵本展のワークシートは、色印刷が読みづらく説明が必要と思った。また、会期中でハガキが売切れてしまったようだが...

(ワークシートの改善点は今後参考としたい。ハガキ・図録の売切れについては、出版社等を紹介した。また、図録等は余ることの心配があるし、予算ぎりぎりのところで行なっていることを理解願いたい。)

- ・寄託とはどういうことか?
(館に展示可能な作品を預かり、展示して良いというもので、館が管理責任を負うものです。)
- ・新規の作品購入はどうか?
(18年度は購入できたが、市の予算が厳しいため毎年は無理である。非常に残念である。)
- ・美術館はなかなか入りづらい感じがしていたが、絵本展は小学生には非常に入りやすく良いきっかけとなった。今後もこのような雰囲気・環境を整えてほしい。
(絵本展によってずいぶん雰囲気が変わったと思う。良い建物・環境なので利用してほしい)
- ・中学生が美術館の存在を知るように美術部へ働きかけようと思うのだが...。
(絵本展では幼稚園・小学校にハガキを配付し周知したので、今後も協力をお願いしたいと思う。)
- ・大貫松三のワークショップに参加し勉強になったと知人が感謝していた。
(ワークショップはいろいろ模索しているので、今後も皆様の協力をお願いしたい。)
- ・報告書のまとめ方で、事業ごとに関連事業の参加人数を入れて分かりやすくしてほしい。

(3)平成18年度下半期事業概要について

山本展をはじめ今後の展覧会の内容を土方学芸担当長が説明

教育プログラム7本を端山学芸員が説明

(質疑応答)

- ・山本展、内田展は楽しみな企画である。
- ・教育プログラムはよくやっているが、スタッフやボランティアはいるのか?
(1人の学芸員が行なっている、時々の手伝いはあるが...。)
- ・この活動をカバーする人が必要なのでは?
(本館は少ない予算、人数で年間これだけの事業を良くやっていると思う。多くの人々を対象とする必要があるので、今回、社会教育部長にも現状を認識してもらおうべく、出席してもらっている。)
- ・広報は市内だけではなく、周辺市も考える必要があるのではないか?
(本市の美術館は自慢できる施設であるので、周辺市の方々のも来てほしいし、そのための広報が重要と考えている。また、予算がつけばJRにも依頼したい。)
- ・駅前地下でPR看板を掲示しているが、場所が悪くて目立たないと思う。
(場所の空いているところを使っている。また、今後は美連協等の展覧会の幹事館として経費を節約しながら展覧会開催に努めたい。)

(4)その他

特に無く、会長が閉会を宣言

次回の協議会は、19年3月の同時刻頃に開催することを委員了解した。

以 上